

# 執筆者インタビュー

東北学院大学経済学部経済学科 佐々木周作ゼミ  
質問者：安藤 回答者：佐々木(真)、松永

—|論文タイトル|—

「新型コロナ・ワクチンに関するニュースの正誤判断と情報共有判断：  
東北学院大学生を対象にしたアンケート調査の分析結果」

1

## 研究内容について

安藤：簡単に研究内容を教えてください！

**松永：**近年、フェイク・ニュースが大きな問題になっています。特に、僕たちのような若者世代がフェイク・ニュースの影響を受けやすいと言われていて、新型コロナ・ワクチンでも接種を阻害しているのではないかと考えました。そこで、どうすればフェイク・ニュースの共有を少なくさせられるか、Nature に掲載された論文を参考に研究を行いました。

Nature の論文では、政治の党派性に関する文脈で、ニュースの正確さを事前に意識させることで、フェイク・ニュースを共有する人が少なくなり、正しいニュースを共有する人が増えたそうです。その研究の結果が、日本の新型コロナ・ワクチンの文脈にも当てはまるのかどうかを、東北学院大学生を対象に独自に実施したアンケート調査で得たデータを使って検証しました。





安藤：ありがとうございます！  
そもそも、研究ってどういう流れで進めるんでしょうか？

松永：最初に、研究のテーマを決めました。次に、参考文献として日本語の書籍や論文、英語の論文を精読しました。



また、色々なアンケート調査票を参考にしたりプレ・テストをしたりしながら、オリジナルのアンケート調査票を作りました。それから、アンケート調査で収集したデータを統計分析し、研究成果の速報レポート・学会提出用の予稿・学会提出用の発表動画・大学の懸賞論文提出用の論文を作成しました。速報レポートは安藤さん、学会用予稿と発表動画は佐々木さん、懸賞論文は私が主担当となって取り組みました。



安藤：それぞれが一回ずつリーダーになって進めてきたんですよね！



テーマについて

安藤：なぜ「新型コロナ・ワクチン」に関するテーマで研究したのかを教えてください！

佐々木（真）：私が普段からよく YouTube を見ている、自分の好きな YouTuber が誹謗中傷に遭って炎上している様子を見かけたり、その誹謗中傷によって芸能人の方が亡くなってしまったというニュースを見たりして、SNS の誹謗中傷を少しでもなくすことができないのかなと思ったことがきっかけです。そこで、三年時に研究するテーマを皆で探す中で、SNS の拡散や誹謗中傷の裏には、注意喚起のつもりで周りに間違った情報を拡散する「誤った正義感」というのがあるのではないかという考えを持ち、三人で相

談してテーマに設定しました。ちょうど新型コロナウイルスの流行が社会問題になっていたこともあって、「新型コロナウイルスのワクチン」を具体的なトピックとして取り上げて、フェイク・ニュースの拡散を抑制するにはどうしたらいいか、というテーマで論文を書くことになりました。

### 3

#### 結果について

安藤：どんな結果が得られましたか？

松永：まず、フェイク・ニュースの見出しを見せた時、8～9割という大部分の人は、



これはフェイク・ニュースだと正確に判断できていることが分かりました。しかし、正確に判断できているにも関わらず、フェイク・ニュースを周囲の人に共有しようと思う人が一定数存在していました。そこで、Nature 論文の結果を踏まえて、ニュースを共有するかどうかを聞く前に、そのニュースが正しいかどうかを判断させる介入を行いました。その結果、フェイク・ニュースを共有しようとする人は少なくなりました。でも、その一方で、フェイク・ニュースではない普通の正しいニュースを共有する人も少なくなってしまうことが分かりました。



安藤：結果は予想通りでしたか？

松永：予想とは違っていました。



安藤：そう考えるのは何故ですか？

松永：まず、これはフェイク・ニュースだと正確に判断できる人が思いの外多かったことです。正答しやすい簡単なニュースもありましたが、新型コロナ・ワクチンについて詳細な知識がないと判別できないものもあったため、回答した東北学院大学生の知識の高さに驚きました。また、介入によってフェイク・ニュースではない普通の正しいニュースを共有する人が少なくなったことも、予想とは違う結果でした。Nature の論文では正

しいニュースを共有する人はむしろ増えていたので、今回も増える、もしくは変わらないだろうと考えていました。



#### 難しかったところについて

安藤：研究を進める上で難しかった点は何でしょうか？

佐々木（真）：私は、自分が執筆を担当した調査概要のパートで、読者にとってわかりやすく興味をひくような文章構成にするところでとても苦労しました。話し言葉になってしまいがちなので、文章を考えるのが難しく、ほかの2人や先生のアドバイスを参考にまとめました。結果の中では、検証IIの分析結果を解釈するのが難しかったです。全体の平均正答率と平均共有率の結果をただ見るのではなく、真のニュースと偽のニュースに分けた上で、偽のニュースを誤解している割合と共有率が一致していない点に注目しないと結果の意味が理解できませんでした。正直、学会用の発表動画を作る段階になってやっと自分の中でちゃんと理解できました。



安藤：なかなか大変でしたね。松永さんはどうですか？

松永：自分の考えを最後まで突き詰めて整理するのが難しかったです。授業で先生と議論しているときには分かった気になっているのですが、いざ論文を執筆する段階になると実は分かっていなくて文章にできないことがありました。そして、その分からない点を間違った方向で深掘りしてしまっていて、適切でないデータ分析を行ったり文章を書いたりしてしまうことがありました。また、メンバー同士の打合せでは、自分の考えを未整理のまま話してしまっていて、相手に自分の考えていることがうまく伝わらないこともありました。

ですが、メモを取り自分の考えを整理しながら授業や打合せに参加することで、最後の方になると少しずつ改善していきました。



安藤：論文を完成させる上での、一番のハプニングは何でしょうか？

佐々木（真）：私は、アンケート調査の終了後、その集まったデータを使って、共有グループと正誤グループの2つのグループが似たグループであるかどうかを確認するために、バランス・チェックという分析をおこないました。そのときに、Excelを使って、アンケート調査で聞いた性別などの基本属性を女性なら1、男性なら0に置き換える作業を行いました。ですが、Excelにあまり慣れていなかったために、一人ひとりの回答を直接確認して、1つ1つ男女を数字に置き換えていきました。でも、その後の授業で、先生に一瞬で数字に置き換える方法を教わり、自分の費やした時間がとても無駄な時間だったことに気づいて絶望しました。ですが、そのやり方を教わったことで、その後のデータを整理する作業はスムーズに行えるようになりました。



安藤：今回の研究でExcelの勉強もできましたね。



#### 動画発表について

安藤：佐々木さんは、行動経済学会での動画発表も担当していましたよね？感想を聞かせてください！

佐々木（真）：私は資料作りが好きなので、パワポでまとめることに関してはとても楽しみにしていました。そのときまでは、まだ自分が発表自体も担当するなんて思っていませんでした。発表するのが自分だと決まって、ハキハキ話したり発表したりするのが苦手な自分としては、正直「まじか…」と思いました。でも、せっかくそういった機会をもらったからには頑張ろうと思い、先生やアナウンサー志望の安藤さんにアドバイスをもらいながら、何度も収録をやり直しました。

先ほど言ったように、検証IIの分析結果の意味を最初はよく理解できていなかったのも、口頭でどう説明したらわかりやすくなるのかを考える点で苦労しました。今回の経験から、声の明るさだったり間の取り方だったり、多くのことを学ぶことができました。今後活かしていきたいです！

# 6

## 見所

安藤：論文の見所を教えてください！

**松永**：自分が執筆したデータ分析のパートです。ワクチンに関するフェイク・ニュースは、ワクチン接種を反対している人にとって共有したくなるもので、それが SNS で広がったら皆がワクチン接種したくなくなると思います。事前にニュースが正しいかどうか考えさせることで、フェイク・ニュースを共有する人を減らせることを示せた検証Ⅲが、一番の見所です。



安藤：なるほど！佐々木さんはいかがでしょう。

**佐々木（真）**：松永さんの挙げた検証Ⅲの分析は、Nature の論文を皆で苦労して読んで考えついたものなので、ぜひ見てほしいなと思います。最初は、事前にニュースの正誤確認をさせることでフェイク・ニュースの共有だけを抑制させられると予想をしていたけれど、実際は真のニュースの共有も抑制してしまうことがわかって私たちも驚いたので、そこに注目してほしいです。



# 7

## 次回研究するなら

安藤：次に研究するなら、どんなことをしてみたいですか？

**松永**：今回の研究は学生だけを対象にしましたが、次回はより幅広い年齢層を対象にして研究をしてみたいです。そうすることで、自分の好きなスポーツ選手や芸能人などがフェイク・ニュースによる炎上や誹謗中傷に巻き込まれなくなるような社会を実現するために、貢献したいです。



最後に…

安藤：最後に感想やメッセージをお願いします！

**松永**：今回のゼミでの活動で、複数の課題発見力が身についたと思います。まず、社会課題の構造を論理的に整理した上で、課題の原因の候補を見定めて、授業で習った統計的手法を用いて原因を特定する力が身に付きました。また、自分自身の課題を発見して自己改善をしていく力も身に付いたと思います。この経験を就職した会社の業務改善や社会人になった後の自己改善につなげていきたいです。



**佐々木（真）**：

今回の研究を終えて、論文を執筆する上では、事実を簡潔に描写するだけでは面白い文章や読者の興味をひくような文章にならないんだなと実感しました。先生から「佐々木さんは簡潔な文章を書

いてくるけど、面白くはないよね」と言われて、最初はどうしたら面白いのかわかりませんでした。話の展開の順番や言い回しの工夫次第で、文章のわかりやすさや面白さが大きく変化することを学びました。唯一、3人の中で自分だけ担当した論文の動画発表では、論文とは違って、7分という制限時間内でどこまで簡単かつ正確に説明できるかを考えるのが難しかったです。今回の経験から、文章力と口頭で説明する力の両方を学ぶことができました。

私たちの研究では、一つのアンケート調査から三つの発見を得ることができます。将来のパンデミックに備える意味でも、新型コロナ・ワクチンのフェイク・ニュースに関する研究を行うことはとても重要です。この論文を読んで、SNS上のフェイク・ニュースの拡散について少しでも問題意識を持って頂けたらなと思います。



安藤：ありがとうございました！！